

超急性期医療促進プログラム理学療法士コースリスト(専門能力向上教育1)

Ver.2

a	分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)								
					他者評価				自己評価				
					評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a	
a	病態重症度評価	APACHE2による評価	APACHE2	APACHE2の評価項目を理解している	○				○				
				APACHE2のスコアリングに用いる期間を理解している	○				○				
				各測定項目ごとの最も悪い値を判断できる	○				○				
				APACHE2のスコアリングを一人で行える	○				○				
				APACHE2の合計スコアを解釈できる	○				○				
	2	気管内チューブに関する知識を修得する	気管内チューブ	気管の内径を理解している	○				○				
				門歯から気管分岐部までの長さを理解している	○				○				
				気管内チューブのサイズ単位を理解している	○				○				
				カフ内圧の設定を理解している	○				○				
				経口挿管のチューブの特徴を説明できる	○				○				
				経鼻挿管のチューブの特徴を説明できる	○				○				
				気管切開のチューブの特徴を説明できる	○				○				
				人工気道による合併症を理解している	○				○				
				吸引カテーテルの直径を理解している	○				○				
				吸引時の挿入する深さを理解している	○				○				
				1回の吸引時間を理解している	○				○				
				吸引時の注意点を理解し観察項目を説明できる	○				○				
				3	血液浄化療法に関する知識を修得する	血液浄化療法	CHDFを日本語で説明できる	○				○	
	CHDFの適応を説明できる	○							○				
	バスキュラーアクセスの部位を理解している	○							○				
	体位変換の前後でのライン確認で注意すべき点を説明できる	○							○				
	体位変換の前後でのバイタルサイン確認で注意すべき点を説明できる	○							○				
	バスキュラーアクセスの確保しやすい体位を理解している	○							○				
	4	ドレーン、カテーテル、点滴、ルート	ドレーン	ドレーンの定義を説明できる	○				○				
				ドレーンの目的を説明できる	○				○				

超急性期医療促進プログラム理学療法士コースリスト(専門能力向上教育1)

Ver.2

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)									
				他者評価			自己評価						
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a		
			胸腔ドレーンの呼吸性変動を確認できる	○				○					
			胸腔ドレーンの呼吸性変動が消失した際のリスクについて説明できる	○				○					
			ドレーンの吸引圧を確認できる	○				○					
			挿入位置のずれの有無を確認できる	○				○					
			ドレーンの事故除去時の対処方法を理解している	○				○					
			脳室ドレーン挿入時の体位変換、吸引操作時の注意点を理解している	○				○					
			スパイナルドレーン挿入時の体位変換、吸引操作時の注意点を理解している	○				○					
			カテーテル(点滴を含む)	カテーテルの定義を説明できる	○				○				
			中心静脈カテーテルの挿入位置を確認できる	○				○					
			閉塞しないように配慮して対処できる	○				○					
			導尿カテーテルバックについて注意点を把握している	○				○					
			末梢動脈カテーテル(A-line)の測定方法を説明できる	○				○					
			A-lineの測定部位を確認できる	○				○					
			A-lineの正常波形を確認できる	○				○					
			Alineの異常波形を正常化する方法を理解している	○				○					
			カテーテル(点滴を含む)	末梢静脈カテーテルの挿入位置を確認できる	○				○				
			末梢静脈カテーテルの滴下不良原因を除去できる	○				○					
			末梢静脈カテーテルの滴下不良原因を除去できない場合の対処方法を理解している	○				○					
			チューブ	チューブの定義を説明できる	○				○				
			経鼻胃チューブのずれの有無を確認できる	○				○					
			廃液バックの接続を外せるかの判断ができる	○				○					
廃液バックの接続を外すことができる	○				○								
b	画像検査所見の評価	1	胸部XおよびCT読影に関する知識を修得する	胸部レントゲン読影の基本法	撮影条件を確認できる(線量)	○				○			
			撮影条件を確認できる(その他)	○				○					
			撮影条件が変化する原因を説明できる(トレンド差)	○				○					

超急性期医療促進プログラム理学療法士コースリスト(専門能力向上教育1)

Ver.2

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)									
				他者評価				自己評価					
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a		
			シルエットサインを説明できる	○					○				
			正面像かを判別できる	○					○				
			吸気位での撮像かを判別できる	○					○				
			読影手順を説明できる	○					○				
			主気管、左右気管支を同定できる	○					○				
			気管変位の有無を判別できる	○					○				
			肺野の透過性低下の有無を判定できる	○					○				
			浸潤影の有無を判読できる	○					○				
			胸水貯留の有無を判読できる	○					○				
			縦隔陰影を同定できる	○					○				
			上大静脈を同定できる	○					○				
			右第1弓を説明できる	○					○				
			右第1弓を同定できる	○					○				
			右第2弓を説明できる	○					○				
			右第2弓を同定できる	○					○				
			左第1弓を説明できる	○					○				
			左第1弓を同定できる	○					○				
			左第2弓を説明できる	○					○				
			左第2弓を同定できる	○					○				
			左第3弓を説明できる	○					○				
			左第3弓を同定できる	○					○				
			左第4弓を説明できる	○					○				
			左第4弓を同定できる	○					○				
			(下行)大動脈陰影を同定できる	○					○				
			下行大動脈陰影の描出不良を指摘できる	○					○				

超急性期医療促進プログラム理学療法士コースリスト(専門能力向上教育1)

Ver.2

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)									
				他者評価				自己評価					
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a		
			下行大動脈陰影の描出不良原因を言及できる	○					○				
			CTRを測定できる	○					○				
			CTRの正常範囲を表記できる	○					○				
			CTRを日本語に訳せる	○					○				
			CTRをフルスペルで表記できる	○					○				
			左右横隔膜の正常位置関係を説明できる	○					○				
			左右横隔膜の正常陰影範囲を説明できる	○					○				
			横隔膜の上方変位の原因を説明できる	○					○				
			横隔膜の下方変位の原因を説明できる	○					○				
			左右横隔膜を同定できる	○					○				
			CP angleを同定できる	○					○				
			CP angle異常の有無を判別できる	○					○				
			CP angle異常を表現できる	○					○				
			CP angleを日本語に訳せる	○					○				
			CP angleをフルスペルで表記できる	○					○				
			皮下気腫の有無を判定できる	○					○				
			挿管チューブの位置を同定できる	○					○				
			気管チューブの位置を同定できる	○					○				
			胸腔ドレーン位置を同定できる	○					○				
			トレンド比較ができる	○					○				
			気胸の胸部X線写真の特徴を説明できる	○					○				
		胸部CT読影の基本	無気肺の有無を判定できる	○					○				
			胸水の有無を判定できる	○					○				
			エアブロンコグラムについて説明できる	○					○				
			浸潤影を同定できる	○					○				

超急性期医療促進プログラム理学療法士コースリスト(専門能力向上教育1)

Ver.2

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)								
				他者評価				自己評価				
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a	
			気管支拡張原因を説明できる	○				○				
			トレンド比較ができる	○				○				
			下行大静脈を同定できる	○				○				
			上行大動脈を同定できる	○				○				
			下行大動脈を同定できる	○				○				
c	血液生化学検査所見の評価	1 血液生化学検査に関する知識を修得する	各種血液生化学検査	白血球の基準値を答えることができる	○				○			
				白血球の種類を答えることができる	○				○			
				WBCを英語で記載することができる	○				○			
				好中球の構成割合が増加する意味を説明することができる	○				○			
				赤血球の基準値(男性・女性)を答えることができる	○				○			
				RBCを英語で記載することができる	○				○			
				赤血球の役割について説明することができる	○				○			
				ヘモグロビンの基準値(男性・女性)について答えることができる	○				○			
				ヘモグロビンの役割について説明することができる	○				○			
				ヘモグロビンが低値の場合に生じやすい症状について説明することができる	○				○			
				ヘマトクリット値の基準値(男性・女性)を答えることができる	○				○			
				ヘマトクリット値について説明することができる。	○				○			
				血小板の基準値を答えることができる	○				○			
				血小板の機能について説明することができる	○				○			
				血小板が低値の場合に注意すべき点について説明することができる	○				○			
				プロトロンビン活性の基準値を答えることができる	○				○			
				プロトロンビン活性について説明することができる	○				○			
				プロトロンビン活性減少および増加の場合に注意すべき点について説明することができる	○				○			
				d-dimerの基準値について答えることができる	○				○			
				d-dimerについて説明することができる	○				○			

超急性期医療促進プログラム理学療法士コースリスト(専門能力向上教育1)

Ver.2

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)								
				他者評価				自己評価				
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a	
			d-dimer高値の際に注意すべき点について説明することができる	○				○				
			総ビリルビンの基準値について答えることができる	○				○				
			総ビリルビンについて説明することができる	○				○				
			総ビリルビンが高値の場合に注意すべき点について説明することができる	○				○				
			ナトリウムの基準値を答えることができる	○				○				
			ナトリウムが低値の場合に生じやすい症状について説明することができる	○				○				
			ナトリウムが高値の場合に生じやすい症状について説明することができる	○				○				
			カリウムの基準値を答えることができる	○				○				
			カリウムが低値の場合に生じやすい症状について説明することができる	○				○				
			カリウムが高値の場合に生じやすい症状について説明することができる	○				○				
			アルブミンの基準値を答えることができる	○				○				
			アルブミンが低値の場合に生じやすい症状について説明することができる	○				○				
			尿素窒素の基準値を答えることができる	○				○				
			尿素窒素について説明することができる	○				○				
			クレアチニンの基準値を答えることができる	○				○				
			クレアチニンについて説明することができる	○				○				
			BUN/Creの基準値を答えることができる	○				○				
			BUN/Creが高値を示す場合について説明することができる	○				○				
			CRPの基準値を答えることができる	○				○				
			CRPが高値を示す場合について説明することができる	○				○				
d	心電図検査所見の評価	1	心電図の知識を修得する	心電図の基礎	モニタ心電図の電極を装着できる(変法II誘導)	○				○		
					心電図のPQRSTの位置が説明できる	○				○		
					P波の意味を説明できる	○				○		
					QRS波の意味を説明できる	○				○		

超急性期医療促進プログラム理学療法士コースリスト(専門能力向上教育1)

Ver.2

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)									
				他者評価				自己評価					
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a		
			T波の意味を説明できる	○				○					
			sinus rhythm(洞調律)を説明できる	○				○					
		不整脈	Afを説明できる	○				○					
			Afの危険性を説明できる	○				○					
			AFLを説明できる	○				○					
			PVC(VPC)を説明できる	○				○					
			PACを説明できる	○				○					
			PaFを説明できる	○				○					
			R on Tを説明できる	○				○					
			short runを説明できる	○				○					
			VTを説明できる	○				○					
			VFを説明できる	○				○					
			Lownの分類を説明できる	○				○					
			伝導ブロック	房室ブロックを説明できる	○				○				
				I度房室ブロックを説明できる	○				○				
		II度房室ブロックを説明できる		○				○					
		Wenckebach型(Mobitz I型)を説明できる		○				○					
		Mobitz II型を説明できる		○				○					
		III度房室ブロックを説明できる		○				○					
		心筋虚血と心筋梗塞	ST上昇の意味を説明できる	○				○					
			ST下降の意味を説明できる	○				○					
		電解質異常	高カリウム血症時の特徴的な心電図波形を説明できる	○				○					
			低カリウム血症時の特徴的な心電図波形を説明できる	○				○					
e	疾患別の病態生理	1	呼吸器疾患・病態に関する知識を修得する	感染性肺疾患	インフルエンザの病態について説明することができる。	○				○			

超急性期医療促進プログラム理学療法士コースリスト(専門能力向上教育1)

Ver.2

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)									
				他者評価			自己評価						
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a		
			インフルエンザの臨床症状について説明することができる。	○					○				
			インフルエンザに多い合併症と稀な合併症を挙げることができる	○					○				
			細菌性肺炎の病態について説明することができる。	○					○				
			細菌性肺炎の臨床症状について説明することができる。	○					○				
			細菌性肺炎の、血液検査・胸部X線の所見の特徴を述べるができる。	○					○				
			誤嚥性肺炎の病態について説明することができる。	○					○				
			誤嚥性肺炎の、血液検査・胸部X線の所見の特徴を述べるができる。	○					○				
			肺化膿症の病態について説明することができる。	○					○				
			肺化膿症の、胸部X線の所見を説明することができる。	○					○				
			肺結核の病態について説明することができる。	○					○				
			肺結核に特徴的なX線所見について説明することができる。	○					○				
			ガフキー号数について説明することができる。	○					○				
			ニューモシスチス肺炎の病態について説明することができる。	○					○				
			ニューモシスチス肺炎に特徴的なX線所見について説明することができる。	○					○				
			日和見感染について説明することができる。	○					○				
		慢性閉塞性肺疾患	COPDを英語表記することができる。	○					○				
			肺気腫と気管支炎、気管支喘息の違いと共通点について説明することができる。	○					○				
			肺気腫の病態について説明することができる。	○					○				
			肺気腫に特徴的な身体所見を述べるができる。	○					○				
			肺気腫に特徴的なX線所見について説明することができる。	○					○				

超急性期医療促進プログラム理学療法士コースリスト(専門能力向上教育1)

Ver.2

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)										
				他者評価				自己評価						
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a			
			肺気腫における肺のコンプライアンス変化について説明することができる。	○				○						
			プラとプレブについて説明することができる。	○				○						
e	疾患別の病態生理	1 呼吸器疾患・病態に関する知識を修得する	慢性閉塞性肺疾患	CO2ナルコーシスについて説明することができる。	○				○					
				びまん性汎細気管支炎の病態について説明することができる。	○				○					
				びまん性汎細気管支炎に高率に合併する疾患を答えることができる。	○				○					
				びまん性汎細気管支炎に多い検査所見、臨床症状について答えることができる。	○				○					
			拘束性肺疾患(間質性肺炎)	間質性肺炎の病態について説明することができる。	○				○					
				特発性間質性肺炎を英語表記することができる。	○				○					
				間質性肺炎で上昇する検査データについて説明することができる。	○				○					
				間質性肺炎に特徴的なX線所見について説明することができる。	○				○					
				間質性肺炎と肺線維症の関係を説明できる。	○				○					
			胸膜の疾患	胸水貯留の原因と疾患について説明することができる。	○				○					
				胸水貯留の臨床症状について説明することができる。	○				○					
				気胸に特徴的なX線所見について説明することができる。	○				○					
			気管支喘息	気管支喘息の病態について説明することができる。	○				○					
				気管支喘息に特徴的な聴診所見について答えることができる。	○				○					
			肺循環障害	肺塞栓症の病態について説明することができる。	○				○					
				肺塞栓症を英語表記することができる。	○				○					
				循環器疾患・病態に関する知識を修得する	狭心症	狭心症の病態について説明できる	○				○			
						狭心症の分類について説明できる	○				○			
					心筋梗塞	心筋梗塞の病態について説明できる	○				○			
						心筋梗塞時に認められる特徴的な血液データ所見について説明できる	○				○			

超急性期医療促進プログラム理学療法士コースリスト(専門能力向上教育1)

Ver.2

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)								
				他者評価				自己評価				
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a	
			特徴的な心電図変化	○				○				
			梗塞部位と梗塞波形が出現する誘導, おもな閉塞枝の関係	○				○				
			心筋梗塞の治療について説明できる	○				○				
		心筋症	心筋症の代表的なもの2つと, それぞれの病態について説明できる.	○				○				
			上記2つを英語でいえる.	○				○				
			それぞれの症状をいえる	○				○				
		三尖弁閉鎖不全症	三尖弁閉鎖不全症の病態について説明できる	○				○				
			三尖弁狭窄症を英語でいえる	○				○				
			三尖弁閉鎖不全症の原因について説明できる	○				○				
			三尖弁閉鎖不全症でみられる身体所見を説明できる	○				○				
		僧帽弁狭窄症	僧帽弁狭窄症の病態について説明できる	○				○				
			僧帽弁狭窄症を英語でいえる	○				○				
			僧帽弁狭窄症でみられる身体所見を説明できる	○				○				
			重症度の指標となるものについて説明できる	○				○				
		僧帽弁閉鎖不全症	僧帽弁閉鎖不全症の病態について説明できる	○				○				
			僧帽弁閉鎖不全症を英語でいえる	○				○				
			僧帽弁閉鎖不全症でみられる身体所見を説明できる	○				○				
			僧帽弁閉鎖不全症の原因について説明できる	○				○				
		大動脈弁狭窄症	大動脈弁狭窄症の病態について説明できる	○				○				
			大動脈弁狭窄症を英語でいえる	○				○				
			大動脈弁狭窄症でみられる身体所見を説明できる	○				○				
			大動脈弁狭窄症の特徴的なエコー所見	○				○				
		大動脈弁閉鎖不全症	大動脈弁閉鎖不全症の病態について説明できる	○				○				

超急性期医療促進プログラム理学療法士コースリスト(専門能力向上教育1)

Ver.2

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)									
				他者評価				自己評価					
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a		
			大動脈弁閉鎖不全症を英語でいえる	○					○				
			大動脈弁閉鎖不全症でみられる身体所見を説明できる	○					○				
		急性大動脈解離	急性大動脈解離の病態について説明することができる(真腔, 偽腔, エントリー, リエントリーの用語を理解)	○					○				
			大動脈解離の病型(Stanford分類, DeBakery分類)について説明できる	○					○				
		急性大動脈解離	合併症について説明できる	○					○				
		心不全	左心不全でみられる身体所見を説明できる	○					○				
			左不全でみられる特徴的な胸写上の所見	○					○				
			左心不全時の血液検査で用いられるBNPについて説明できる	○					○				
			右心不全でみられる身体所見を説明できる	○					○				
		糖尿病	糖尿病の病態について説明できる	○					○				
			糖尿病を成因による分類が説明できる	○					○				
			糖尿病の合併症について説明できる	○					○				
			糖尿病の診断について説明できる	○					○				
			低血糖症状について説明できる	○					○				
		くも膜下出血	くも膜下出血について病態を説明できる(原因を含む)	○					○				
			くも膜下出血の原因について説明できる	○					○				
			3大予後不良因子	○					○				
			3大合併症	○					○				
f	運動学	1	運動学の知識を修得する	呼吸筋・換気	呼吸のリズム調節の制御方法を説明できる	○				○			
					呼吸運動の神経調節を説明できる	○				○			

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)									
				他者評価				自己評価					
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a		
			呼吸運動の化学調節を説明できる	○					○				
			呼吸運動の行動調節を説明できる	○					○				
			胸郭運動による胸腔内圧の変化を説明できる(吸気時, 呼気時)	○					○				
			安静呼吸時の吸気筋を列挙できる	○					○				
			強制呼吸時の主な呼気筋を列挙できる	○					○				
			横隔膜の起始・停止部の概略を説明できる	○					○				
			横隔膜の形状を説明できる	○					○				
			安静吸気時, 深吸気時の横隔膜移動量を説明できる	○					○				
			安静呼吸で横隔膜運動がまかなう割合を説明できる	○					○				
			上部胸郭運動を説明できる	○					○				
			下部胸郭運動を説明できる	○					○				
			呼吸補助筋を列挙できる	○					○				
			ガス交換の物理現象について説明できる	○					○				
			正常人の換気・血流比について説明できる	○					○				
	2	解剖	呼吸器	咽頭・気管上端・気管分岐部の高さを理解できる	○				○				
				左右気管支の分岐角度を言える。	○				○				
				右肺と左肺の肺葉の区分を言える	○				○				
				肺葉(上葉など)の対応について, 肺区域(S1など)について説明できる	○				○				
				胸膜について説明できる。	○				○				
				胸腔について, 説明できる。	○				○				
				胸水の正常な量および産生と吸収について説明できる	○				○				
				縦隔について説明できる	○				○				
				縦隔に含まれる臓器を説明できる	○				○				
			循環	冠状動脈について説明できる	○				○				
				刺激伝導系について説明できる	○				○				

超急性期医療促進プログラム理学療法士コースリスト(専門能力向上教育1)

Ver.2

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)								
				他者評価				自己評価				
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a	
			刺激伝導系への血液供給について説明できる	○				○				
			心臓の弁について説明できる(略語を含む)	○				○				
g	人工呼吸器	1 人工呼吸器に関する知識を習得する	人工呼吸器モード	VCの意味を説明できる	○				○			
				PCの意味を説明できる	○				○			
				PSの意味を説明できる	○				○			
				CPAPについて説明できる	○				○			
				PEEPについて説明できる	○				○			
				BIPAPについて説明できる	○				○			
				SIMVについて説明できる	○				○			
				VC-SIMVについて説明できる	○				○			
				PC-SIMVについて説明できる	○				○			
				強制換気と補助換気の違いを説明できる	○				○			
				APRVについて説明できる	○				○			
				IRVについて説明できる	○				○			
				HFOVについて説明できる	○				○			
			設定画面	PEEPの設定値を読み取ることができる	○				○			
				PS圧の設定値を読み取ることができる	○				○			
				強制換気の圧または量をの設定値を読み取ることができる	○				○			
				強制換気回数の設定値を読み取ることができる	○				○			
			モニタリング	全呼吸回数を読み取ることができる	○				○			
				自発呼吸回数のみを読み取ることができる	○				○			
				一回換気量を読み取ることができる	○				○			
		自発呼吸時の一回換気量を読み取ることができる	○				○					
		分時換気量を読み取ることができる	○				○					
	2 機械換気に関する知識を修得する	非侵襲的陽圧換気	NPPVをフルスベルで表記できる	○				○				

超急性期医療促進プログラム理学療法士コースリスト(専門能力向上教育1)

Ver.2

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)									
				他者評価				自己評価					
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a		
			Sモードについて説明できる	○					○				
			Tモードについて説明できる	○					○				
			S/Tモードについて説明できる	○					○				
	3	酸素療法に関する知識を修得する	酸素療法	鼻カニューラでの酸素投与量限界が分かる	○					○			
				鼻カニューラ1 $\frac{1}{2}$ l/min投与時の酸素濃度が分かる	○					○			
				鼻カニューラ2～5 $\frac{1}{2}$ l/min投与時の酸素濃度が分かる	○					○			
				酸素マスクでの酸素投与限界が分かる	○					○			
				酸素マスク5 $\frac{1}{2}$ l/min投与時の酸素濃度が分かる	○					○			
				酸素マスク6～8 $\frac{1}{2}$ l/min投与時の酸素濃度が分かる	○					○			
				リザーバー付きマスク6, 8, 10, 12 $\frac{1}{2}$ l/min投与時の酸素濃度が分かる	○					○			
	4	気管内チューブに関する知識を修得する	気管内チューブ	挿管チューブの構造を理解している	○					○			
				気管切開チューブの構造を理解している	○					○			
				カフ圧調整の方法を理解している	○					○			
				カフの役割を理解している	○					○			
i	モニタリング機器	1	モニタリング機器に関する知識を修得する	アラーム	アラーム中止ボタンを理解している	○					○		
					アラーム音を消音にできる	○					○		
			HR	HRの意味が判る	○					○			
				HRの標準値が判る	○					○			
				モニタ心電図の電極を装着できる(変法II誘導)	○					○			
			PR	PRの意味が判る	○					○			
			SpO2	SpO2の説明ができる	○					○			
				標準値が判る	○					○			
				描出波形から正しい値が取れているか判断できる	○					○			
			RR	呼吸数を読み取ることができる	○					○			
				描出方法を説明できる	○					○			

超急性期医療促進プログラム理学療法士コースリスト(専門能力向上教育1)

Ver.2

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)										
				他者評価				自己評価						
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a			
			A-Line	A-line波形の描出方法を説明できる	○				○					
				A-lineの測定部位を確認できる	○				○					
				トランスデューサーとの関係を理解している	○				○					
				描出波形から正しい値が取れているか判断できる	○				○					
				波形を正しく描出する方法を理解している	○				○					
				幅狭波形の意味を説明できる	○				○					
			NBP	NBPの意味が判る	○				○					
				マンシェットを正しく装着できる	○				○					
				測定間隔を変更できる	○				○					
			スワンガンツカテーテル	測定位置を理解している	○				○					
				測定項目を説明できる	○				○					
				CIの意味を説明できる	○				○					
				CIの基準値が判る	○				○					
				COの意味を説明できる	○				○					
				ScvO2の意味を説明できる	○				○					
				ScvO2値低下の原因を類推することができる	○				○					
			j	理学療法評価	1	意識	JCSを使用して意識レベルを確認することができる	○				○		

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)									
				他者評価				自己評価					
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a		
			GCSを使用して意識レベルを確認することができる	○					○				
			RASSを用いて鎮静状態を評価できる	○					○				
		バイタルサイン	HRを確認できる	○					○				
			PRを確認できる	○					○				
			ABPを確認できる	○					○				
			NBPを確認できる	○					○				
			RR(呼吸数)を確認できる	○					○				
			体温(腋窩温、膀胱温、直腸温など)を確認できる	○					○				
					○					○			
2	フィジカルアセスメントの知識を習得する	視診	胸郭の形状を判別できる	○					○				
			易呼吸姿勢を理解している	○					○				
			呼吸数の測定方法を説明できる	○					○				
			正常呼吸数を理解している	○					○				
			呼吸パターンを判別できる	○					○				
			頸静脈怒張を観察できる	○					○				
			呼吸補助筋の活動を観察できる	○					○				

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)									
				他者評価				自己評価					
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a		
			ばち状指を観察できる	○				○					
			チアノーゼを観察できる	○				○					
			チアノーゼの定義を理解している	○				○					
		触診	胸郭の触診法で調べる項目を説明できる	○				○					
			rattlingを説明できる	○				○					
			胸郭の音声伝導で減弱原因を列挙できる	○				○					
			減弱時の触診方法を理解している	○				○					
			胸郭の音声伝導で亢進原因を列挙できる	○				○					
			亢進時の触診方法を理解している	○				○					
			気管の短縮が確認できる	○				○					
			気管の偏位が確認できる	○				○					
			皮下気腫の感触特徴を説明できる	○				○					
			浮腫の確認方法を説明できる	○				○					
			浮腫の程度を分類できる	○				○					
			打診	正常な打診音の種類を説明できる	○				○				
				全肺気量が増加した場合の打診音質を説明できる	○				○				
		全肺気量が減少した場合の打診音質を説明できる		○				○					
		胸水や胸膜肥厚がある場合の打診音質を説明できる		○				○					
		気管支に分泌物がある場合の打診音質を説明できる		○				○					
		聴診	左右肺ともに対照的に正常呼吸音の有無を確認することができる	○				○					
			呼吸音の増強, 減弱について評価できる	○				○					
			連続性ラ音と断続性ラ音の違いを理解できる.	○				○					
			異常呼吸音(低音性連続性ラ音:いびき様音:rhonchi)の有無を確認できる.	○				○					
			異常呼吸音(低音性連続性ラ音:いびき様音:rhonchi)の示唆する所見を理解できる.	○				○					

超急性期医療促進プログラム理学療法士コースリスト(専門能力向上教育1)

Ver.2

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)										
				他者評価				自己評価						
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a			
			異常呼吸音(高音性連続性ラ音:笛様音:wheeze)の有無を確認できる。	○					○					
		聴診	異常呼吸音(高音性連続性ラ音:笛様音:wheeze)の示唆する所見を理解できる。	○					○					
			異常呼吸音(粗い断続性呼吸音:水泡音:coarse crackles)の有無を確認できる。	○					○					
			異常呼吸音(粗い断続性呼吸音:水泡音:coarse crackles)の示唆する所見を理解できる。	○					○					
			異常呼吸音(細かい断続性呼吸音:捻髪音:fine crackles)の有無を確認できる。	○					○					
			異常呼吸音(細かい断続性呼吸音:捻髪音:fine crackles)の示唆する所見を理解できる。	○					○					
	4 神経学的評価の知識を習得する	脳神経内科領域	被殻出血の障害像概要を説明できる	○					○					
			視床出血の障害像概要を説明できる	○					○					
			橋出血の障害像概要を説明できる	○					○					
			小脳出血の障害像概要を説明できる	○					○					
			皮質下出血の障害像を説明できる	○					○					
			脳出血患者に血圧管理段階を説明できる	○					○					
			脳出血患者に血圧管理段階を行う理由を説明できる	○					○					
			頭蓋内圧とPaCO ₂ の関係について説明できる	○					○					
			脳梗塞の種類を4種類答えることができる	○					○					
			NIHSSを利用して評価できる	○					○					
			脳梗塞患者への血圧管理方法の指針を答えられる	○					○					
			くも膜下出血と脳梗塞の障害像の違いを説明できる	○					○					
			SAH患者の脳血管攣縮が生じる理由を説明できる	○					○					
			SAH患者のスパズム期を一般的にいつか説明できる	○					○					
			一般的に急性期SAH患者の血圧コントロール範囲を答えることができる	○					○					
				脊髄損傷	ASIA impairment scaleの概要を説明できる	○					○			
					Zancolliの分類の概要を説明できる	○					○			

超急性期医療促進プログラム理学療法士コースリスト(専門能力向上教育1)

Ver.2

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)									
				他者評価				自己評価					
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a		
			国際標準評価法における各神経支配レベルのkey muscle(上肢筋)を答えられる	○					○				
			国際標準評価法における各神経支配レベルのkey muscle(下肢筋)を答えられる	○					○				
			国際標準評価法における各神経支配レベルのkey sensory point 一覧(C2～C8)を答えられる	○					○				
			国際標準評価法における各神経支配レベルのkey sensory point 一覧(T1～T12)を答えられる	○					○				
			国際標準評価法における各神経支配レベルのkey sensory point 一覧(L1～S5)を答えられる	○					○				
			ASIAの分類に従って、頸髄損傷患者を評価できる	○					○				
k	呼吸理学療法手技	1	リラクゼーション技法の知識を修得する	安楽肢位	Head Up座位での安楽肢位を実施することができる。	○				○			
					座位での安楽肢位を提案することができる。	○				○			
					立位での安楽肢位を提案することができる。	○				○			
				呼吸筋マッサージ	過緊張となっている呼吸補助筋(胸鎖乳突筋、斜角筋)や肩甲挙筋、僧帽筋のマッサージを行うことができる。	○				○			
				呼吸筋ストレッチ	肋間筋のストレッチを実施することができる。	○				○			
					呼吸筋ストレッチ体操を指導することができる。	○				○			
				呼吸介助法	呼吸介助法の目的と期待できる効果について説明することができる。	○				○			
					呼吸介助法の適応について説明することができる。	○				○			
					呼吸介助法の禁忌について説明することができる。	○				○			
					呼吸介助法の実施上の注意点について説明することができる。	○				○			
					仰臥位下部胸郭呼吸介助法を実施することができる。	○				○			
					仰臥位上部胸郭呼吸介助法を実施することができる。	○				○			
					座位上部胸郭呼吸介助法を実施することができる。	○				○			
					座位下部胸郭呼吸介助法を実施することができる。	○				○			
					側臥位下部胸郭呼吸介助法を実施することができる。	○				○			
		2	徒手治療手技の知識を修得する	徒手胸郭伸張法	徒手胸郭伸張法の定義を述べることができる。	○				○			

超急性期医療促進プログラム理学療法士コースリスト(専門能力向上教育1)

Ver.2

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)									
				他者評価				自己評価					
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a		
			徒手胸郭伸張法の目的と期待できる効果を説明することができる。	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>				
			徒手胸郭伸張法の適応を述べるができる。	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>				
			徒手胸郭伸張法の禁忌を述べるができる。	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>				
			肋骨の捻転を実施することができる。	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>				
			肋骨の捻転を実施する際の注意点を述べるができる。	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>				
			胸郭の捻転を実施することができる。	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>				
			胸郭の捻転を実施する際の注意点を述べるができる。	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>				
			胸郭の側屈を実施することができる。	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>				
			胸郭の側屈を実施する際の注意点を述べるができる。	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>				
			背部過伸展を実施することができる。	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>				
			背部過伸展を実施する際の注意点を述べるができる。	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>				
			シルベスター法を実施することができる。	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>				
			シルベスター法を実施する際の注意点を述べるができる。	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>				
	3	排痰法の知識を習得する	体位排痰法	体位排痰法の定義を述べるができる。	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>				
				体位排痰法の目的と期待できる効果について説明することができる。	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>				
				体位排痰法の適応について説明することができる。	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>				

超急性期医療促進プログラム理学療法士コースリスト(専門能力向上教育1)

Ver.2

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)								
				他者評価				自己評価				
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a	
			体位排痰法の禁忌について説明することができる。	○					○			
			排痰体位について述べるができる。	○					○			
			修正排痰体位について説明することができる。	○					○			
			体位排痰法を実施する際の注意点を述べるができる。	○					○			
			体位排痰法の中止あるいは終了基準を述べるができる。	○					○			
		徒手的排痰手技	徒手的排痰手技の種類を答えることができる。	○					○			
			徒手的排痰手技の目的と期待できる効果について述べるができる。	○					○			
			徒手的排痰手技の適応について述べるができる。	○					○			
			徒手的排痰手技の禁忌について述べるができる。	○					○			
			軽打法の定義を述べるができる。	○					○			
			振動法の定義を述べるができる。	○					○			
			揺すり法の定義を述べるができる。	○					○			
		咳嗽・ハフティング	咳嗽の目的と期待できる効果について述べるができる。	○					○			
			咳嗽における4つの相について説明することができる。	○					○			
			咳嗽時の注意点について述べるができる。	○					○			
			吸気量の違い、姿勢の違いによる咳嗽の行いやすさについて説明することができる。	○					○			

超急性期医療促進プログラム理学療法士コースリスト(専門能力向上教育1)

Ver.2

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)								
				他者評価				自己評価				
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a	
			気管圧迫法の定義について述べるができる。	○				○				
			気管圧迫法の適応について述べるができる。	○				○				
			気管圧迫法の禁忌について説明することができる。	○				○				
			気管圧迫法を実施することができる。	○				○				
			ハフティングの定義を述べるができる。	○				○				
			ハフティングの目的と期待できる効果について説明することができる。	○				○				
			ハフティングの適応を説明することができる。	○				○				
			肺容量と等圧点(equal pressure point)の関係が説明できる。	○				○				
			末梢気道から分泌物を移動させる場合と、中枢気道から分泌物移動を促す場合のハフティングの違いについて説明することができる。	○				○				
		気道内振動法:アカペラ	振動呼気陽圧療法の定義について説明することができる。	○				○				
			振動呼気陽圧療法の目的と期待できる効果について述べるができる。	○				○				
			振動呼気陽圧療法の適応について説明することができる。	○				○				
			振動呼気陽圧療法の禁忌について説明することができる。	○				○				
			AcapellaとFlutterの違いについて説明することができる。	○				○				
			Acapellaの使用方法を説明することができる。	○				○				
			Acapella使用の注意点を述べるができる。	○				○				
		排痰のための呼吸法	排痰のための呼吸法の種類を答えることができる。	○				○				
			アクティブサイクル呼吸法(ACBT)の定義を述べるができる。	○				○				
			ACBTの目的と期待できる効果について説明することができる。	○				○				

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)								
				他者評価				自己評価				
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a	
			ACBTの適応について述べる事ができる。	○					○			
			ACBTの禁忌について説明することができる。	○					○			
			ACBTを患者に指導することができる。	○					○			
			自律性排痰法の定義を述べる事ができる。	○					○			
			自律性排痰法の目的と期待できる効果を述べる事ができる。	○					○			
			自律性排痰法の適応を述べる事ができる。	○					○			
			自律性排痰法の禁忌を述べる事ができる。	○					○			
			自律性排痰法を患者に指導することができる。	○					○			
	4	体位呼吸療法の知識を習得する	体位呼吸療法	体位呼吸療法の定義を述べる事ができる。	○				○			
				体位呼吸療法の目的と期待できる効果を説明することができる。	○				○			
				体位呼吸療法の適応を説明することができる。	○				○			
				体位呼吸療法の禁忌を説明することができる。	○				○			
				体位呼吸療法の効果のメカニズムについて説明することができる。	○				○			
				体位呼吸療法の終了基準について説明することができる。	○				○			

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)								
				他者評価				自己評価				
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a	
			腹臥位療法の定義を述べることができる。	○					○			
			腹臥位療法の目的と期待できる効果を説明することができる。	○					○			
			急性呼吸不全患者を腹臥位にすることで得られる効果である、即時効果と遅発効果について説明することができる。	○					○			
			腹臥位療法を実施することができる。	○					○			
			腹臥位療法の中止基準を説明することができる。	○					○			
	5	呼吸練習	腹式呼吸	腹式呼吸の定義を述べることができる。	○				○			
				腹式呼吸の目的と期待できる効果について説明することができる。	○				○			
				腹式呼吸の適応を述べることができる。	○				○			
				腹式呼吸の禁忌を説明することができる。	○				○			
				腹式呼吸を患者に指導することができる。	○				○			
				腹式呼吸実施上の注意点を説明することができる。	○				○			
				Laplaceの法則について説明することができる。	○				○			
			口すぼめ呼吸	口すぼめ呼吸の定義を述べることができる。	○				○			
				口すぼめ呼吸の目的と期待できる効果を説明することができる。	○				○			
				口すぼめ呼吸の適応を述べることができる。	○				○			

超急性期医療促進プログラム理学療法士コースリスト(専門能力向上教育1)

Ver.2

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)								
				他者評価				自己評価				
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a	
			口すぼめ呼吸の禁忌を説明することができる。	○					○			
			口すぼめ呼吸を患者に指導することができる。	○					○			
			口すぼめ呼吸指導の注意点を説明することができる。	○					○			
			口すぼめ呼吸のメカニズムについて説明することができる。	○					○			
		部分呼吸	部分呼吸の定義を述べるができる。						○			
			部分呼吸の目的と期待できる効果を述べるができる。	○								
			部分呼吸の適応を説明することができる。									
			部分呼吸を実施することができる。									
		呼吸法と動作の協調	呼吸法と動作の協調法について患者に説明することができる。	○					○			
6	呼吸筋トレーニング	呼吸筋トレーニング	呼吸筋トレーニングの適応を述べるができる	○					○			
			呼吸筋トレーニングの禁忌を述べるができる	○					○			
			呼吸筋トレーニングの方法を述べるができる	○					○			
			呼吸筋トレーニング実施時の注意事項を理解している	○					○			
			呼吸筋トレーニングの治療効果を述べるができる	○					○			
7	肺過膨張手技		作用原理を説明することができる	○					○			
			目的と効果を列挙できる	○					○			
			禁忌症例を列挙できる	○					○			

超急性期医療促進プログラム理学療法士コースリスト(専門能力向上教育1)

Ver.2

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)											
				他者評価				自己評価							
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a				
			注意点を説明できる	○					○						
			指導者監督の下に実施できる	○					○						
			主導的に実施できる	○					○						
				○					○						
1	離床のための理学療法	1	離床に着目した理学療法の知識を修得する.	OSCE(関川先生)	○					○					
				血液ガス所見	PaO2の正常値と結果を解釈することができる	○					○				
					PaCO2の正常値と結果を解釈することができる	○					○				
					pHの正常値と結果を解釈することができる	○					○				
					P/F比を求めることができる	○					○				
					P/F比の正常値と結果を解釈することができる.	○					○				
					肺泡気動脈血酸素分圧較差(AaDO2)を求めることができる	○					○				
					肺泡気動脈血酸素分圧較差(AaDO2)の正常値と結果を解釈することができる	○					○				
					重炭酸イオン(HCO ₃ ⁻)の正常値と結果を解釈することができる	○					○				
					BEの正常値と結果を解釈することができる	○					○				
					呼吸性アシドーシスの要因と、代表的な疾患や病態を説明できる	○					○				
					呼吸性アルカローシスの要因と、代表的な疾患や病態を説明できる	○					○				
					代謝性アシドーシスの要因と、代表的な疾患や病態を説明できる	○					○				
					代謝性アルカローシスの要因と、代表的な疾患や病態を説明できる	○					○				
				抜管時介入	深呼吸と頻呼吸を行い、呼吸数、一回換気量の評価ができる	○					○				
					SBTの説明ができる	○					○				
					RSBIについて説明できる。	○					○				
					抜管前に姿勢を整えることができる	○					○				

超急性期医療促進プログラム理学療法士コースリスト(専門能力向上教育1)

Ver.2

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)									
				他者評価				自己評価					
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a		
			抜管に狭窄音がないかどうか確認できる	○					○				
			ACBTを実施できる	○					○				
			咳嗽のポイントを説明できる	○					○				
		循環	血圧を測定することができる。	○					○				
			血圧の基準値を答えることができる。	○					○				
			循環作動薬の種類と時間量から、患者の循環機能の変化を予測することができる。	○					○				
			測定した血圧から、離床可否を判断することができる。	○					○				
			橈骨動脈触知をすることができ、その時の血圧値を予測することができる。	○					○				
			頸動脈触知をすることができ、その時の血圧値を予測することができる。	○					○				
			キャピラリーリフィリングタイム(末梢血管再充填時間)について説明することができる	○					○				
			キャピラリーリフィリングタイム(末梢血管再充填時間)から末梢循環不全の兆候を確認することができる。	○					○				
			心拍数(or脈拍数)を測定することができる。	○					○				
			心拍数の基準値を答えることができる。	○					○				
			脈拍のリズム(or脈波)から不整脈の有無を確認することができる。	○					○				
			何らかの心電図異常の存在を調べることができる	○					○				
			離床を中止する心電図異常について答えることができる。	○					○				
			心電図所見から理学療法の実施是非について判断することができる。	○					○				
			測定した心拍数(or脈拍数)から、離床可否を判断することができる。	○					○				
			Nohriaの分類について説明することができる。	○					○				
			チアノーゼの有無を確認することができる。	○					○				
			四肢の冷感を評価することができる。	○					○				
			四肢の湿潤を評価することができる。	○					○				

超急性期医療促進プログラム理学療法士コースリスト(専門能力向上教育1)

Ver.2

分類	一般目標	学習項目	学習細目	a=十分できる、b=できる、c=要努力 (3段階評価)								
				他者評価				自己評価				
				評価不能	c	b	a	未実施	c	b	a	
		循環	起座呼吸について説明することができる。	○				○				
			頸静脈怒張の有無を確認することができる。	○				○				
			腹水の有無を確認することができる。	○				○				
			pitting edemaとnon-pitting edemaの違いを説明することができる。	○				○				
			浮腫の性状(fast edema or slow edema)を確認し、その原因について推測することができる。	○				○				
			D-dimerの値からDVTの有無について確認することができる。	○				○				
			抗凝固薬の種類と用量、ATPPの推移、D-dimerの値から、患者のPEのリスクについて推測することができる。	○				○				
			離床時の血圧変動から、離床の中断・続行の判断を行うことができる。	○				○				
			離床時の脈拍変動から、離床の中断・続行の判断を行うことができる。	○				○				
			血管内脱水のある患者が離床した際に起こる、血圧と心拍数の変化について答えることができる。	○				○				
			起立性低血圧の誘引について説明することができる	○				○				
			離床時の血圧低下に対して、対応することができる。	○				○				
			薬剤	循環作動薬について理解する	○				○			
		鎮静剤について理解する		○				○				
		呼吸筋力評価	呼吸筋力計の測定項目を理解している	○				○				
			取扱い上の注意(故障原因)を理解している	○				○				
			感染予防に配慮して、機器を扱うことができる	○				○				
			呼吸筋力計の測定時の注意事項を理解している	○				○				